

文化財を使った 地域の歴史学習

県指定史跡「久玉城跡」を 通して、地域の歴史を学ぶ

熊本県教育総務局文化課

11月28日(月)、天草市立久玉小学校において、県指定史跡「久玉城跡」を教材とした公開授業を実施しました。

5・6年生と一緒に、学校に隣接する久玉城跡の歴史と城づくりの工夫を、「探検久玉城」と題し、武士の時代、特に戦国時代を中心に学習しました。

久玉城跡は、自然地形を利用した中世城に、江戸時代初期、新たに石垣や虎口(進路こぐちがクランク状の城への通路)が築られました。

子どもたちには、中世城の復元図で城のイメージを持たせ、国指定史跡である同市倉岳町の棚底城跡の例を用いて、曲輪くるわ、堀切ほりきり、切岸きりぎしなど守りを固くするための工夫や、熊本城を例に石垣や虎口について学習しました。

フィールドワークでは、事前学習で学んだ自然地形を利用した中世城のつくりや守りの工夫と、石垣などの近世の城づくりの工夫を久玉城で見学し、実感することができました。



フィールドワークで真剣に話を聞く子どもたち

子どもたちは、戦国時代に久玉の地には領主がいて、土地を守り、海で活躍したことや、久玉に面している八代海が南の玄関口であり、交易などにおいて重要な場所であることを知りました。

今回の学習を通して子どもたちは、地域の歴史を学びました。久玉城跡について学ぶことで歴史を知ることのおもしろさに気づき、久玉城跡を大切にしていこうという気持ちも芽生えたようです。

子どもたちの感想から

- ・久玉の歴史が知ることができて、とってもおもしろかったです。
- ・久玉城は敵から城を守る工夫がしてあってすごいなと思った。
- ・今回の学習で自分たちの祖先がどんなふうにかつてきたのかがわかりました。
- ・久玉町の歴史を改めて知ることができ、久玉城を私たちが受け継がなくてはならないと思いました。